

かき す 茎 立 つくした おわ
柿三本・酢一桶・くゝたち・土筆給び候ひ了んぬ。

唐土に天台山と云ふ山に竜門と申して百丈の滝あり。此の滝の麓ふもとに、春の初めより登らんとして多くの魚集まれり。千万に一も登ることを得れば竜となる。魚、竜と成らんと願ふこと、民の昇殿を望むが如く、貧なるものの財たからを求むるが如し。仏に成ることも亦此くの如し。彼の滝は百丈、早き事、強兵がっぴょうの天より箭そらを射徹やすより早し。此の滝へ魚登らんとすれば、人集まりて羅網あみをかけ、釣りをたれ、弓を以て射る。左右の辺に間なし。空には 鷗くまたか・鷺わし・鷄とび・鳥からす、夜は虎とら・狼おおかみ・狐きつね・狸たぬき何にとなく集まりて食らひ噬む。仏になる事も是を以て知んぬべし。

有情輪廻うじょうりんね生死六道と申して、我等が天竺てんじくに於て師子と生まれ、漢土日本に於て虎狼ころう野干と生まれ、天には鷗くまたか・鷺わし、地には鹿・蛇と生まれしこと数をしらず。或は鷹きじの前の雉、猫ねこの前の鼠ねずみと生まれ、生きながら頭をつゝき、しゝむらをかまれしこと数をしらず。是くの如く捨て置きし一劫が間の身の骨は、須弥山しゅみせんよりも高く、大地よりも厚かるべし。惜しき身なれども、云ふに甲斐なく奪うばはれてこそ候ひしか。然しからば今度このたび法華經の為に身を捨て命をも奪むはれたらば、無量無数劫むしゅごうの間の思ひ出なるべしと思ひ切り給ふべし。穴賢あなかしこ穴賢、又々申すべし。恐々謹言。

日 蓮 花 押

大井莊司入道殿